

PROTECH®

4CHフィールドミキサー

FS-405

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。
なお、取扱説明書は必要に応じてご覧になれるよう
大切に保管してください。

この製品の使用、または使用不能から生ずる付随的な損害(情報内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など)に関して、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

取扱説明書の記載内容を守らないこと、あるいは取扱説明書の記載内容の誤記、等により生じた損害に関して、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになった後は、大切に保管してください。安全上の注意は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容になっていますので、必ずお守りください。

表示と図記号の意味は次のようになっています。



警告

“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負うことが想定されること”を示します。

重傷とは、失明、怪我、高温やけど、低温やけど、感電、骨折、中毒などで、治療に入院や長期の通院を要するものをさします。

加熱、火事、感電、怪我および機器の破損を防ぐため必ずお守りください。



禁止

- 機器のカバー、部品などをとりはずさないこと。
- 機器の分解、改造、修理をしないこと。
- 水、その他液体の近くで使用しないこと。
- 水、湿気にさらさないこと。
- 水滴、水はねにさらさないこと。雨にさらさないこと。
- 汗、飲み物などでぬらさないこと。
- 水、その他液体の入った容器、花瓶などを機器の上に置かないこと。
- 金属などを機器の上に置かないこと。



指示

- 煙が出ている、変なおいや音がする等の異常が発生した場合は、すぐに電源スイッチを切る！
- 水、汗などが内部に入った場合は、すぐに電源スイッチを切る！
- 内部に異物などが入った場合は、すぐに電源スイッチを切る！
- 落したり、強い衝撃を与えたり、破損した場合は、すぐに電源スイッチを切る！

スイッチを切らないでそのまま使用すると、加熱、火事、感電、怪我および機器の破損の原因となります。

※修理、その他サービスは、指定のサービス技術者にお問い合わせください。

※お買い上げの販売店または PROTECH サポートセンターにお問い合わせください。



注意

“取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負うことが想定されるか、または、物的損害の発生が想定されること”を示します。

傷害とは、治療に入院や長期の通院を要しない、怪我、やけど、感電、などをさします。
物的損害とは、家屋、家財および家畜、ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

加熱、火事、感電、怪我および機器の破損を防ぐため必ずお守りください。



指示



禁止



指示

1. 取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書を大切に保管してください。
2. 警告、注意に従ってください。指示に従ってください。
3. 機器のお手入れには、乾燥した布を使用してください。
4. 機器を水の近くで使用しないでください。
5. 機器を暖房機器、調理器など、またアンプなど、熱を発生する熱源の近くに設置しないでください。
6. 機器を引火性ガスの発生する場所では使用しないでください。事前にスイッチを切ってください。
7. 機器を指定の電源電圧以外で使用しないでください。
8. 機器をぐらついた台や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
9. 機器の上に重いものなどを置かないでください。
10. 付属品、アクセサリ等は、本機器製造元が指定したものを使用してください。
11. カート、スタンド、三脚、ブラケット、等は、本機器製造元が指定したもの、または、本機器の付属品となるものを使用してください。カートの使用時、カートの移動時の機器の落下による怪我にご注意ください。
12. 機器に換気口が設置されている場合は、換気口を塞いだり、換気を妨げないように、取扱説明書に従って設置してください。

点検・整備・修理は、販売店またはPROTECHサポートセンターにご依頼ください。

目次

4 ch Field Mixer FS-405

目次

各部名称と働き.....4～12

| | |
|----------------------------|-------|
| 入力パネル(左側面)..... | 4～5 |
| イコライザー調整パネル(天板)..... | 6～7 |
| メインパネル(前面)..... | 8～10 |
| 入出力パネル(右側面)・バッテリーホルダー..... | 11～12 |

使用方法.....13～23

| | |
|---------------------------------------|-------|
| バッテリーケースの取り出しと装着..... | 13 |
| 電源ON/OFFとバッテリー残量の確認..... | 14 |
| 入力音声の種類を選択する..... | 15 |
| 音声出力をレコーダーに接続する..... | 16 |
| 出力レベルを調整する..... | 17～18 |
| 入力レベルを調整する..... | 19 |
| 入力音声をイコライジングする..... | 20 |
| フェードイン・アウトを使用する..... | 21 |
| AUX INPUT (5/6ch)に入力する..... | 22 |
| 8 ch (12 ch)ミキサーとして使用する(リンク機能)..... | 23 |

周波数特性.....24

ブロックダイアグラム.....25

外形寸法図.....26

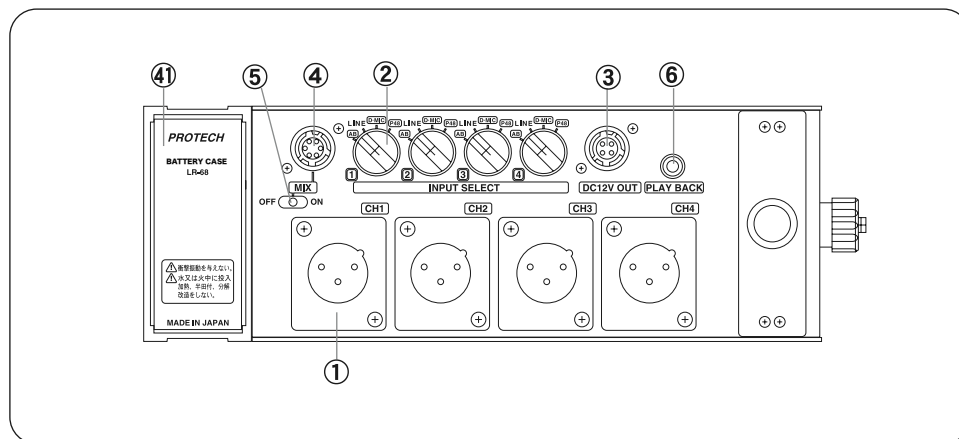
仕様.....27

各部名称と働き

4 ch Field Mixer FS-405

各部名称と働き

入力パネル(左側面)



①入力コネクタ CH1/CH2/CH3/CH4 (XLR 3-pin)

FS-405 Aタイプ : メス
FS-405 Bタイプ : オス

XLR 3-pin メス ピンアサイン



XLR 3-pin オス ピンアサイン



②入力切替スイッチ INPUT SELECT

P48 : ファンタム48Vマイク(ソニー社製C-74 等)をご使用時はこの位置にします。

D-MIC : ダイナミックマイクをご使用時はこの位置にします。

LINE : ラインレベルでの入力時はこの位置にします。

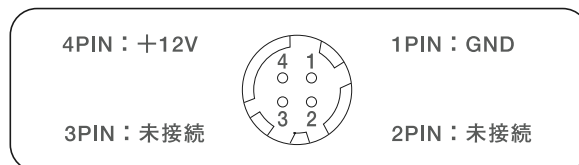
AB : A-B12Vのマイク(ゼンハイザー社製MKH416T 等)をご使用時はこの位置にします。

入力パネル(左側面)

③DC 12V OUT コネクタ

ワイヤレスレシーバー等にDC 12Vを供給するためのミニ4ピン出力コネクタです。

ピンアサイン ミニ4ピン メス

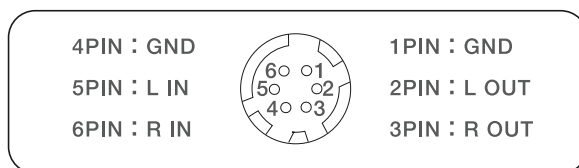


④MIX コネクタ (BUS IN /OUT)

親機のMIXコネクタに専用ケーブルの M(マスター)側を接続し、子機のMIXコネクタにS(スレーブ)側を接続することにより、子機の信号を親機にミキシングできます。

(注)どちらが親機になってもかまいません。

ピンアサイン ミニ6ピン メス



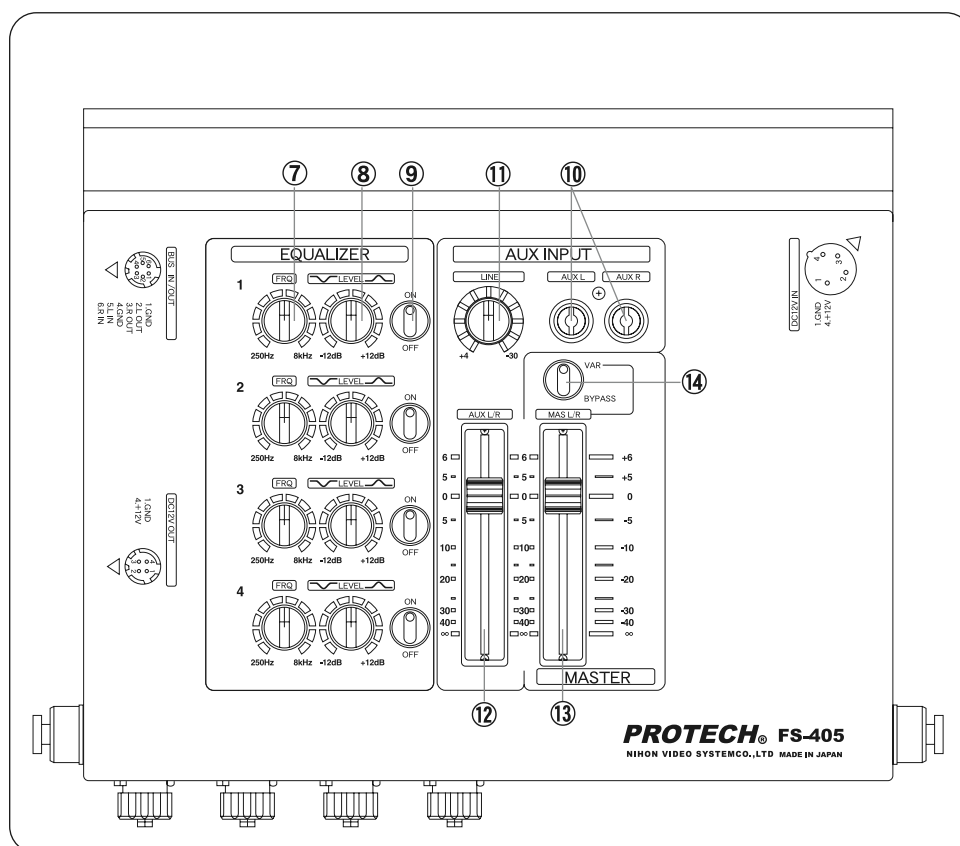
⑤MIX ON/OFF スイッチ

親機側のMIXスイッチを ONにすると、子機の信号をすべて親機にミキシングします。

⑥プレイバック 入力コネクタ PLAY BACK

ステレオミニプラグ(φ3.5)用入力コネクタです。レコーダーのヘッドホン出力から本機に入力してください。

イコライザー調整パネル(天板)



⑦ イコライザーフリケンシーボリューム EQUALIZER FRQ

入力ch毎にイコライザー周波数を調整するためのボリュームです。250Hz ~ 8kHzの可変範囲で任意に調整できます。

⑧ イコライザーレベルボリューム EQUALIZER LEVEL

イコライザーのレベルを調整するボリュームです。イコライザーフリケンシーボリューム(⑦)で設定した周波数を -12dB ~ +12dB の範囲で調整できます。

⑨ イコライザーON/OFFスイッチ

イコライザーフリケンシーボリューム(⑦)、イコライザーレベルボリューム(⑧)で調整されたイコライザー効果を ON/OFFするスイッチです。
このスイッチで効果を確認したり、調整した設定を残したままイコライザーを OFFにすることができます。

イコライザー調整パネル(天板)

⑩ AUX LINE 入力コネクタ AUX L/AUX R (5/6ch)

2 ch (L/R) のRCA入力コネクタです。

⑪ AUX LINE トリムボリューム AUX INPUT LINE

LINE 入力のレベルの調整ボリューム (L/R連動) です。-30～+4dBsの範囲で可変です。

⑫ AUX LINE マスターボリューム AUX L/R

AUX のミキシングレベルを調整するボリューム(スライド式フェーダー L/R連動)です。

(注)AUX LINE 入力には、ハイパーリミッターはありません。

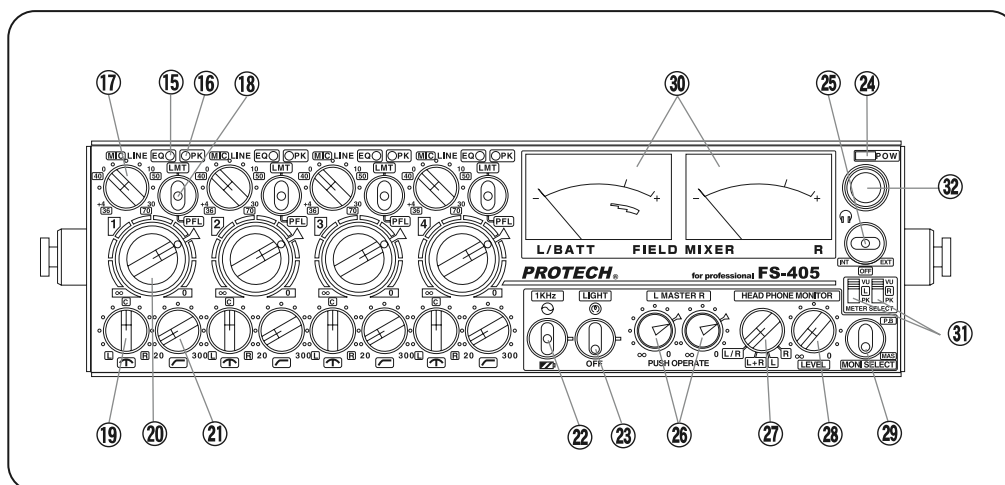
⑬ MASTERボリューム MAS L/R

MASTER出力のレベルを調整するためのボリューム(スライド式フェーダー L/R連動)です。

⑭ MASTER ボリューム BYPASS スイッチ MASTER VAR/BYPASS

このスイッチを VAR (VARIABLE) にすると、MASTERボリューム (⑬) による出力調整が可能です。
BYPASS にすると、出力レベルが固定となります。

メインパネル(前面)



⑮ イコライザー (EQ) LED

天板上のイコライザースイッチが ON の状態を表示するLEDです。これにより、前面パネルでイコライザーの ON/OFFが確認できます。

⑯ オーバーロード (PK) LED

各ch毎にレベルが瞬間でもオーバーした時に点灯して、入力レベルまたはchマスターボリュームの設定値が高いことを示します。

⑰ MIC/LINE トリムボリューム

入力を正しいレベルで取り込むための調整ボリュームです。マイクで入力された音声は、最小-70dBsから最大-36dBsまでの間で調整することができます。これにより、感度の違うマイクやレベルの違う音源の音声を同レベルにすることができます。LINE入力の場合は、-30~+4dBsの間で調整できます。

⑱ ハイパーリミッター／PFL(プリフェーダーリッスン) スイッチ LMT/PFL

各入力ch毎に独立して設けられているハイパーリミッター回路をchごとにON/OFFするスイッチです。

(注)ハイパーリミッターは、スイッチをOFFにしてトリムボリュームおよびchマスターボリュームでレベル調整確定後、ON(LMT側)にしてください。

また、スイッチをPFL側にすると、押している間だけPFL機能が働き、右メーターにchマスターボリュームの前のレベルが表示され、ヘッドホンにはその音声のみが出力されます。ただし、chマスターボリュームがMIN(∞)の時はミキシングされません。

メインパネル(前面)

⑲ パンポッドボリューム

各ch毎に調整された信号を L/R へどのようにミキシングするかを調整するボリュームです。

L : L のみヘミキシング

C : L と R の両方ヘミキシング

R : R のみヘミキシング

中間位置 : ツマミ位置に比例した出力バランスでLとRとヘミキシング

⑳ chマスターボリューム (表示LED付)

各ch毎のミキシングレベルを調整するボリュームです。

ライトスイッチ (㉓) が ㉑ 側になっているとツマミの先端が点灯し、暗い中でも調整ができます。

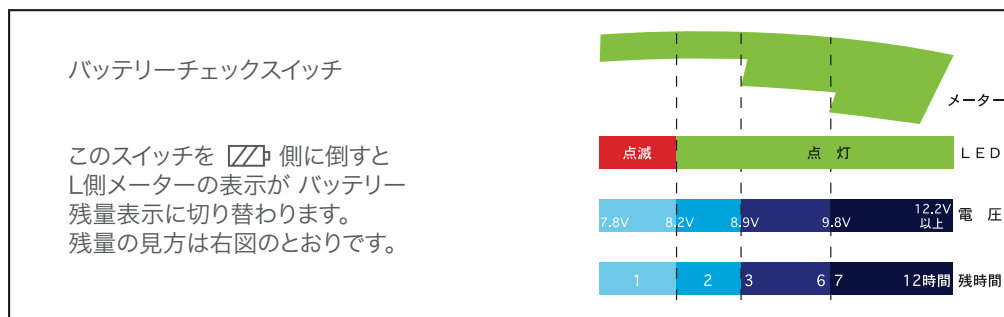
(注) ハイパーリミッタースイッチ (㉒) がONになっているチャンネルはボリュームを上げても基準レベルをオーバーしなくなるので、上げ過ぎには注意してください。

㉑ LOW CUT周波数調整ボリューム

風雑音等の低域をカットするための遮断周波数を 20Hz ~ 300Hzの間で調整するボリュームです。
ヘッドホン等でモニターしながら調整して使用してください。

㉒ 1kHz/バッテリーチェックスイッチ

このスイッチを ㉑ 側に倒すと、メイン出力(MASTER OUT, FIX OUT)およびサブ出力(SUB OUT)に 1kHz 基準音が出力されます。



㉓ ライトスイッチ LIGHT

このスイッチをセンターにするとオーバーロード表示機能が働き、オーバーロードLED (㉒) がオーバーロード表示をするようになります。㉑ 側にすると ch毎のマスターボリュームLEDおよびメーターバックライトが点灯し暗い中での操作が容易になります。

㉔ POW表示LED

POWERスイッチ (㉕) が INT(内部電源)またはEXT(外部電源)にセットされ、電源がONになっているときに点灯します。この表示は電圧チェック機能を持っており、電源電圧が約8.2V以下になると点滅し、電池の容量不足を警告します。

メインパネル(前面)

②⑤ POWERスイッチ INT/EXT

INTにすると内部(後面)のバッテリーケースから電源を供給します。
EXTにするとキャノン4ピンDC12V入力コネクタ(③⑨)またはBP-90用DC12V入力コネクタ(③⑩)からの電源供給になります。
電源がONになっている時は、INT、EXTのどちらでもPOW表示LED(②④)が点灯します。

②⑥ マスターボリューム MASTER L/R

MASTER出力レベル調整用のマスターボリュームで、L/R独立です。
ツマミは、プッシュロックタイプを採用し、不用意に動かないようになっています。調整したい場合はツマミを押すととびだしますので調整が容易に行えます。調整後再度押し込んでください。

(注) 天板のMASTER出力の設定で、BYPASSスイッチがVAR側で、ボリュームがMIN(∞)になっていると出力されません。ご注意ください。

②⑦ ヘッドホンモニター切替スイッチ HEAD PHONE MONITOR

標準ヘッドホンジャック(③②)およびミニヘッドホンジャック(③③)にセットされたヘッドホンに出力するモニター信号を選択するスイッチです。

☐ L/R モードではステレオとなり、☐ L+R モードでは LとRのMIX、☐ L モードではL、☐ R モードではRの音声をモノラルでモニターできます。

②⑧ ヘッドホンモニターレベルボリューム HEAD PHONE MONITOR LEVEL

ヘッドホンモニター切替スイッチ(②⑦)で選択された音声のモニターレベルを調整するボリュームです。

②⑨ モニターセレクトスイッチ MONITOR SELECT

メーターおよびヘッドホンでモニターする音声をマスター出力(MAS OUT)またはプレイバック入力(P.B.)に切り替えるスイッチです。

☐ MAS 側にするとメーターおよびヘッドホンでミキサー本体から出力される音声信号をモニターできます。
☐ P. B 側にするとプレイバック入力コネクタ(⑥)から入力されたレコーダー等の音声信号をプレイバックレベルボリューム(②⑧)で調整しモニターできます。

③⑩ VU/PEAKメーター

L/R 2個のメーターによりステレオ同時モニターができます。
メーター切替スイッチ(③⑪)により、VUとPEAKの切替えが可能です。メーター切替スイッチ(③⑪)がVU側の時は、VUメーターとなり、上段の目盛り -20 ~ +3dB で表示されます。PK側に切り替えると、PEAK PROGRAMメーターとなり、下段の目盛り -60 ~ 0dB の表示となります。
1kHz/バッテリーチェックスイッチ(②②)を ☒ 側にしている間は、L側のメーターでバッテリーレベルの表示をします。

(注) 入力が基準レベル(VUでは 0dB、PEAKでは -20dB)のとき、出力が、出力レベルマスター出力切替スイッチ(③⑥)で設定された +4/0/-20/-60dBとなります

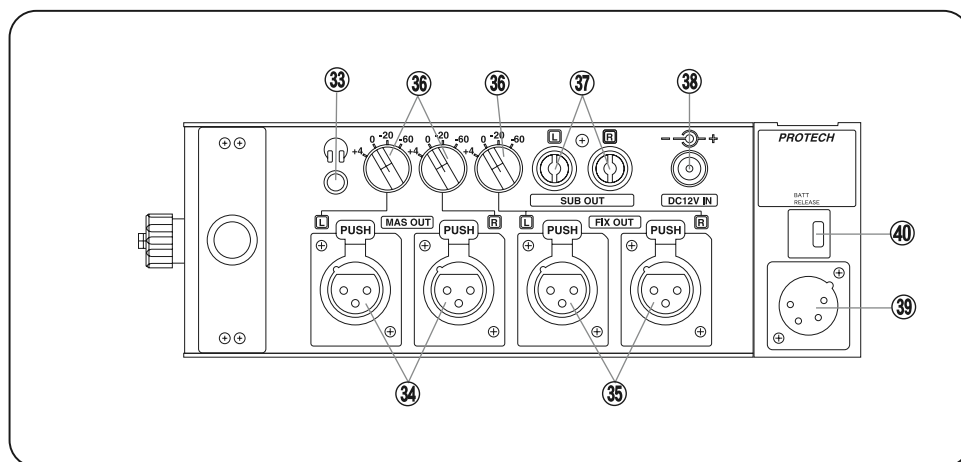
③⑪ メーター切替スイッチ METER SELECT

VU/PEAKメーター(③⑩)をVUまたはPEAKメーターに切り替えるスイッチで、L/R独立して設定ができます。

③② 標準ヘッドホンジャック

標準プラグ(φ6.3)用ヘッドホンジャックです。②⑦～②⑨によって設定された音声をモニターできます。

入出力パネル(右側面)・バッテリーホルダー



③③ ミニヘッドホンジャック

ミニプラグ(φ 3.5)ステレオヘッドホンジャックです。前面パネルにある標準ヘッドホンジャック(③②)と同時モニターが可能です。

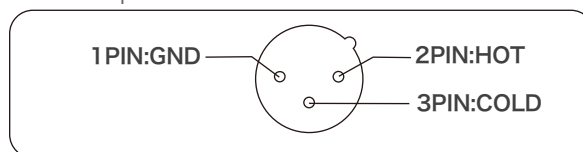
③④ マスター出力コネクタ MAS OUT L/R (XLR 3-pin)

マスターボリュームにより出力調整が可能です。

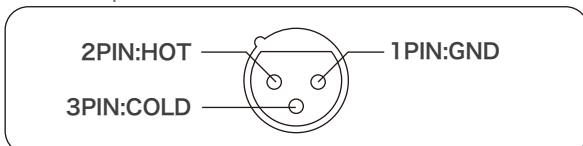
出力基準レベルを、マスター出力切替スイッチ(③⑥)により、L/Rch毎に +4/0/-20/-60dBmに設定できます。標準タイプは、(Bタイプ)メスコネクタ、特注タイプは、(Aタイプ)オスコネクタです。

FS-405 Aタイプ: オス
FS-405 Bタイプ: メス

XLR 3-pin オス ピンアサイン



XLR 3-pin メス ピンアサイン



③⑤ フィックス出力コネクタ FIX OUT L/R (XLR 3-pin)

マスターボリュームに影響されない固定レベルが出力されます。

入出力パネル(右側面)・バッテリーホルダー

③⑥ マスター／フィックス出力レベル切替スイッチ

マスター出力レベルを +4/0/-20/-60dBmの4つのレベルより選択し、切り替えるスイッチです。L/R 独立して設定することができますので、接続するレコーダーに合わせてそれぞれを設定してください。フィックス出力は、L/R連動です。

※アンバランス入力 of 機器に接続される場合は、0/-20/-60dBmの範囲で設定してください。

③⑦ サブ出力コネクタ (RCA) SUB OUT L/R

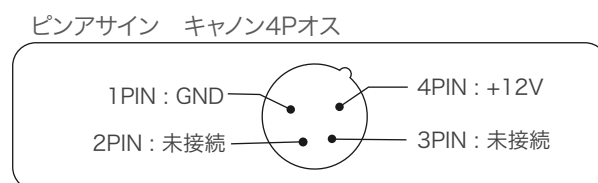
RCAコネクタで L/Rが出力されます。家庭用レコーダー等に適合するよう、出力レベルは -10dBVに設定されています。

③⑧ BP-90用DC12V入力コネクタ

BP-90タイプバッテリーより電源を入力するためのコネクタです。入力電圧はDC9～18Vです。この場合も、POWERスイッチ (②⑤) はEXT側にしてください。

③⑨ キヤノン4ピン DC12V 入力コネクタ

キヤノン4ピン外部電源入力コネクタです。入力電圧はDC9～18Vです。このコネクタから電源を供給する場合は、POWERスイッチ (②⑤) をEXT側にしてください。



④⑩ バッテリーケース取り出しボタン BATT RELEASE

このボタンを押すとバッテリーケース (④⑪) を取り出すことができます。

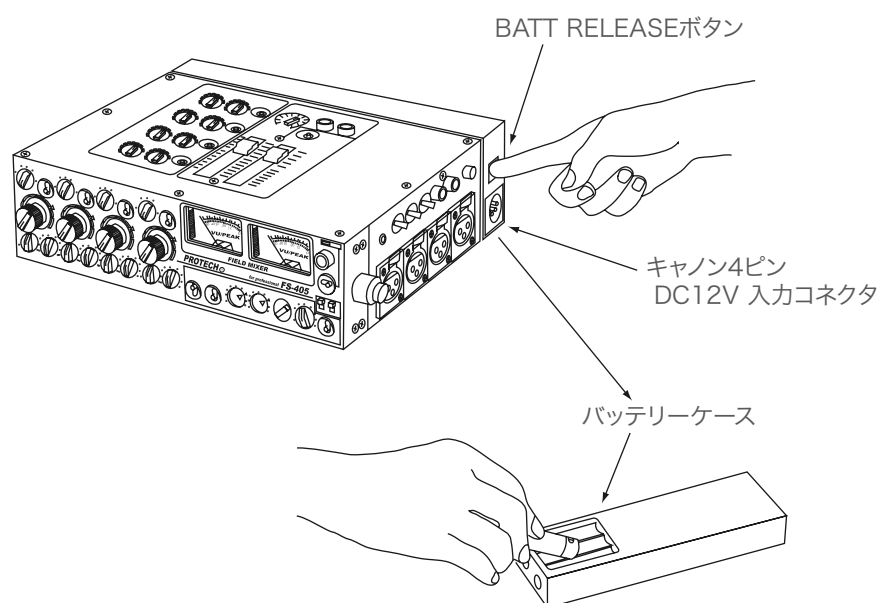
④⑪ バッテリーケース (LR-68)

単三乾電池 (LR-6) 8本を入れて使用するバッテリーケースです。

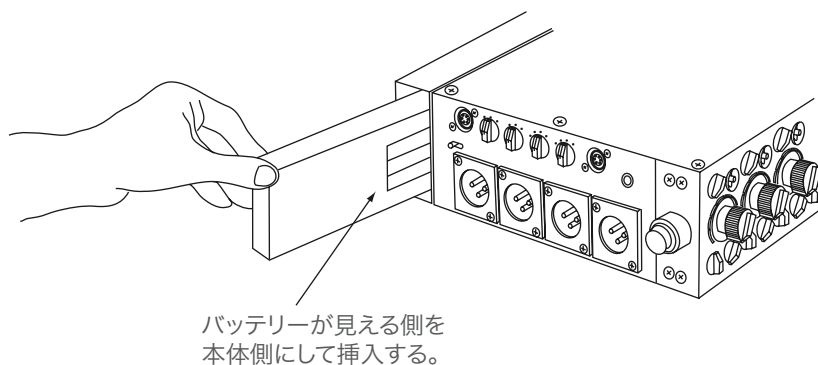
■バッテリーケースの取り出しと装着

1. まず、バッテリーケースに単三乾電池8本を正しい方向に入れます。
バッテリーケースはBATT RELEASEボタンを押して取り出します。

(注) 外部電源を使用するときは、キャノン4ピン入力コネクタに接続してください。



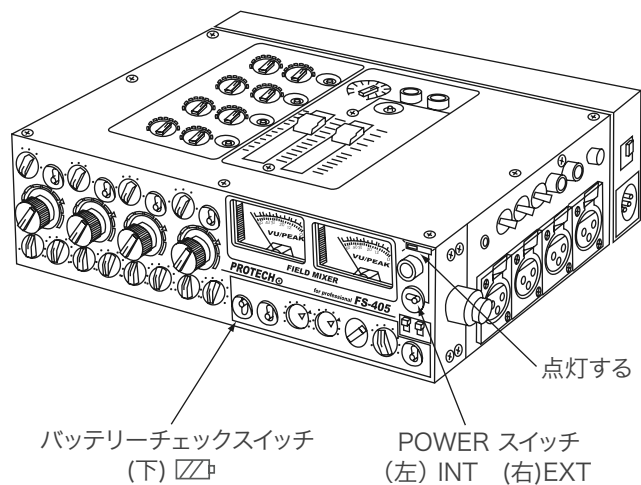
2. バッテリーケースを方向に気をつけて本体に挿入し、『カチッ』と音がするまで押し込みます。



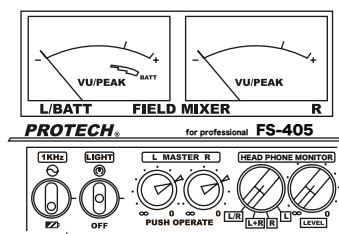
3. この時バッテリーケースがロックされていることをご確認ください。

■電源ON/OFF と バッテリー残量の確認

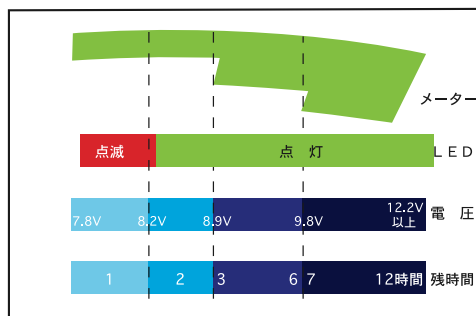
1. フロントパネル右側のPOWERスイッチを INT(左側)にし、POWER LEDが点灯することを確認します。
外部電源を使用するときは、POWERスイッチをEXT(右側)にしてください。



2. バッテリーチェックスイッチを 点灯 側に下げると、L/BATTのメーターが振れバッテリー残量を表示します。緑の一番右の領域に針があれば、7時間以上使用可能です。



スイッチを下(点灯)にする

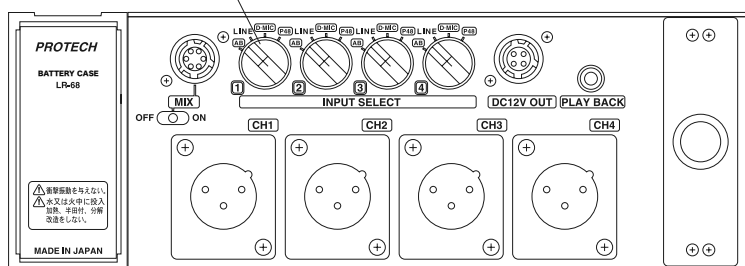


■入力音声の種類を選択する

1. P48ファンタム電源タイプのコンデンサマイクを使用する場合は、左側面入力切替スイッチをP48にセットし、A-B12タイプのコンデンサマイク(ゼンハイザ社416T 等)を使用する場合は、ABにセットします。

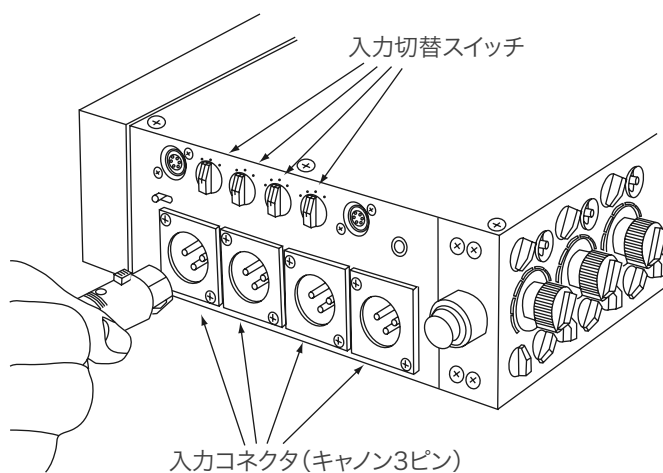
(注)LINEレベルの音声を入力するときは、入力切替スイッチをLINEにしてください。

入力切替スイッチを切り替える



2. ダイナミックマイク(電源を必要としないマイク)を使用するときは、切替スイッチをD-MICにセットしてください。

3. 入力の選択が終わりましたら、入力コネクタにキャノン3ピンケーブルで接続します。



■音声出力をレコーダーに接続する

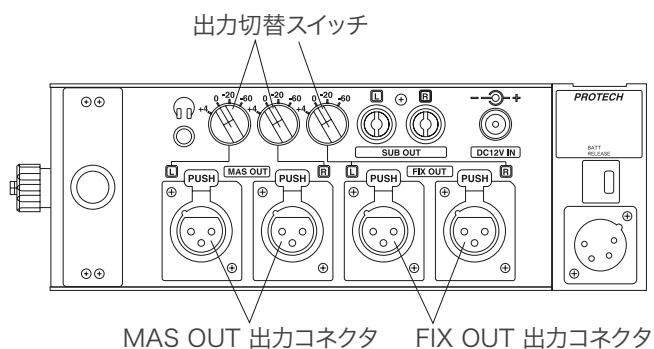
1. 音声出力をレコーダーに接続するには、右側面パネルの MAS OUT (L/R) コネクタからキャノン3ピンケーブルでレコーダーの入力と接続します。

MAS OUT 出力レベル切替スイッチを、それぞれ接続された機器、レコーダーの入力レベルに合わせて適切なポジションに切り替えます。

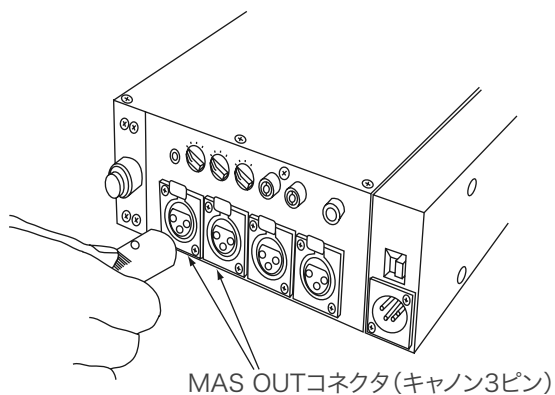
MAS OUT L / R : +4, 0, -20 または -60dB

※アンバランス入力に接続される場合は、+4dBmには設定しないでください。

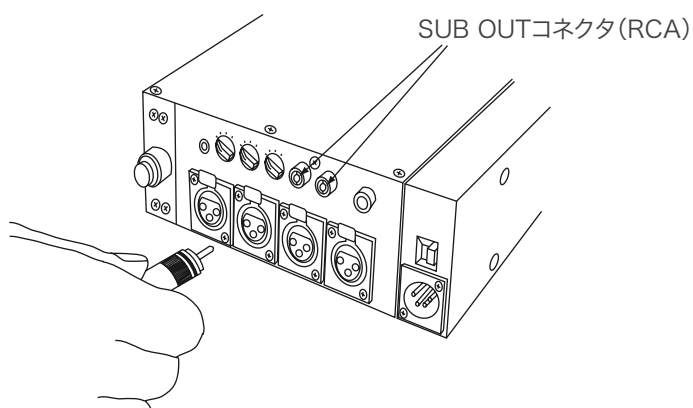
例：レコーダーが LINE入力 +4dBの場合、MAS OUT も+4dBに設定します。



2. MAS OUT L/R コネクタにキャノン3ピンケーブルを接続します。

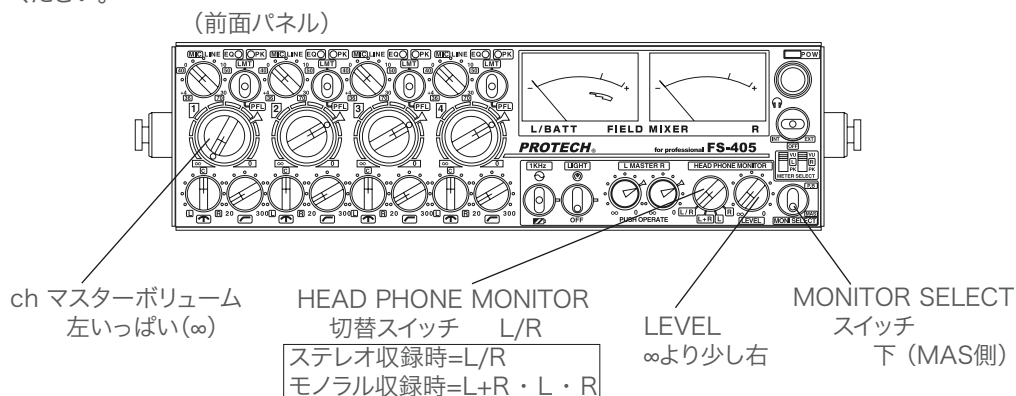


3. RCA入力のレコーダーの場合は、SUB OUT L/R コネクタに接続します。出力レベルは、-10dBVです。

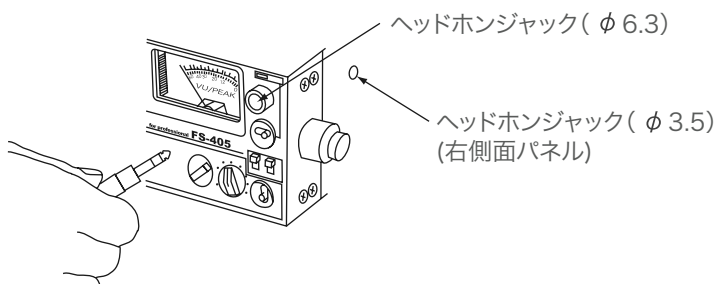


■出力レベルを調整する

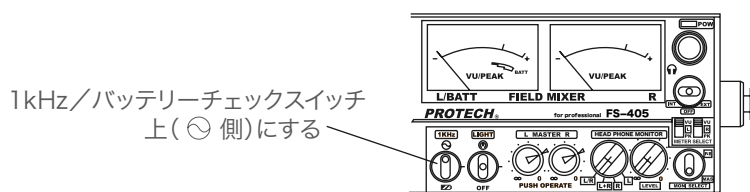
1. 全chのマスターボリュームを左いっぱいに回して ∞ にします。MONITOR SELECTはMAS(下側)にし、HEAD PHONE MONITOR切替スイッチをL/Rにし、LEVELを左いっぱいの ∞ から少し右にしてください。



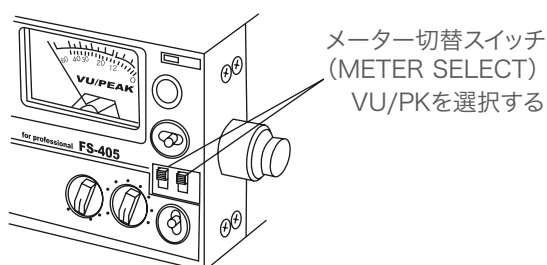
2. ヘッドホンジャックにヘッドホンを差し込んでください。



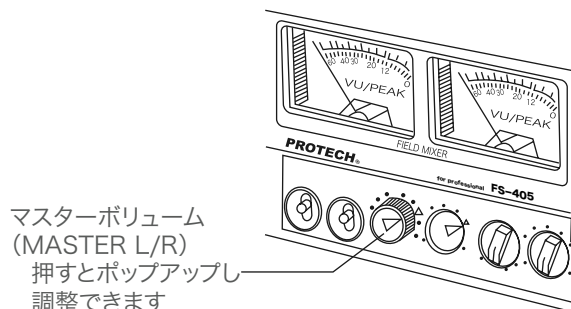
3. 前面パネルの 1kHzスイッチをON(上側 ☺)にします。



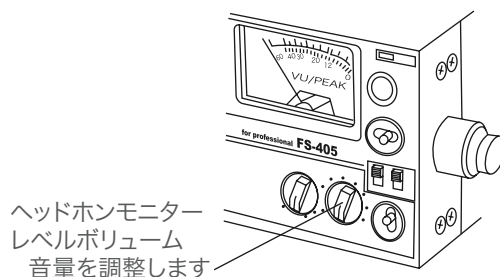
4. METER SELECTスイッチをVUまたはPKに切り替えます。このとき、接続するレコーダーの採用しているメーターを選択して行うとより正確にレベル合わせができます。



5. このとき、VUなら 0dBに、PEAKなら -20dBになるようにマスターボリューム(MASTER L/R)を調整します。

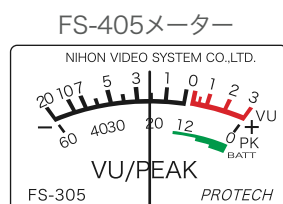


6. この時、ヘッドホンモニターレベルボリュームを適度な音量になるように調整します。

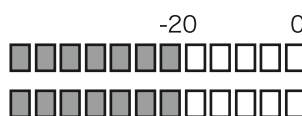


7. ここで、接続されたレコーダーのレベルが正しくなるように、レコーダーの入力レベルを調節します。

(注)レコーダーがPEAKメーター仕様なら、FS-405およびレコーダーを -20dBになるように調整するのが適切です。



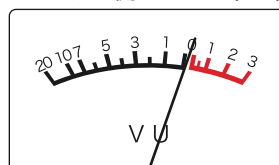
レコーダー側メーター (デジタル)



(注)レコーダーがVUメーター仕様なら、FS-405およびレコーダーを 0dBになるように調整するのが適切です。



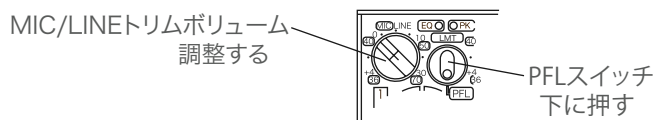
レコーダー側メーター (VU)



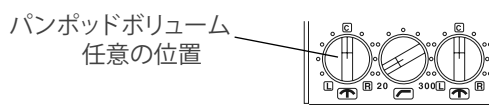
8. 調整後、1kHzをOFFにします。

■入力レベルを調整する

1. 入力に接続されたchの PFLスイッチを下に押しながら、右のRメーターが適正レベルになるように MIC/LINEトリムボリュームで調整します。

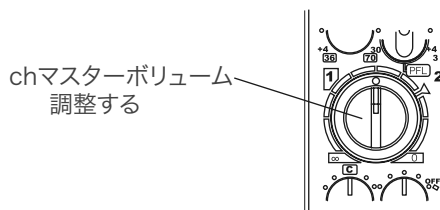


2. パンポッドボリュームは、任意の位置に設定します。

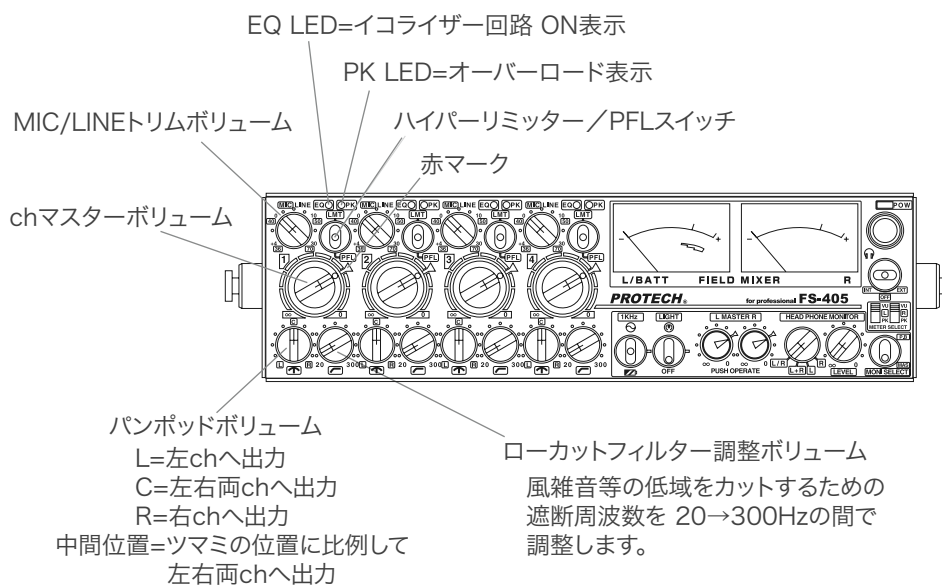


3. マスターボリュームにて適正レベルになるように調整します。

(注)この時、リミッタースイッチをOFF(中立位置)にして調整しないと、メーターは適正でもレベルが高くなってしまいますので注意してください。



4. 設定終了後にリミッタースイッチを LMT(上)にします。
突然の過大入力時にも、リミッターが働き、音声が歪むのを防ぐことができます。

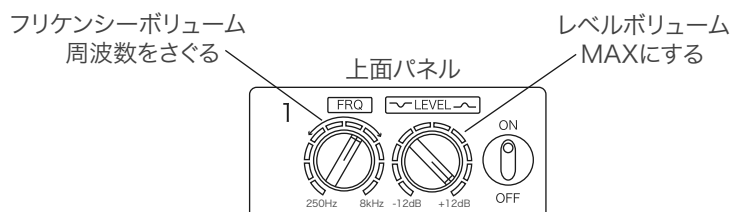


■入力音声をイコライジングする

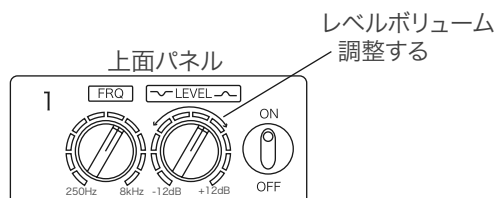
1. 入力音声の特定の音域を強調または抑えたい場合は、上面パネルのイコライザーにより調節します。
調整したいchのEQUALIZERスイッチをONにします。



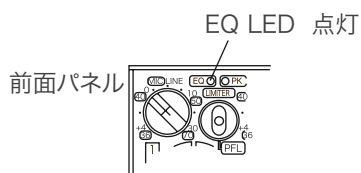
2. LEVEL調整ボリュームを右いっぱい(+12dB)に回します。
ヘッドホンで確認しながらFRQのボリュームを250Hz～8kHzの範囲で変化させ、強調したい音声が一番良く聞こえる周波数を探ります。



3. 周波数が決まれば、LEVELを任意に調整します。



4. イコライザーの効果を確認するには、EQUALIZERスイッチのON/OFFで効き具合を確認できます。
また、EQUALIZERをONにしたとき前面パネルのEQ LED(黄色)が点灯し、前面パネルでもEQのON/OFFが確認できます。

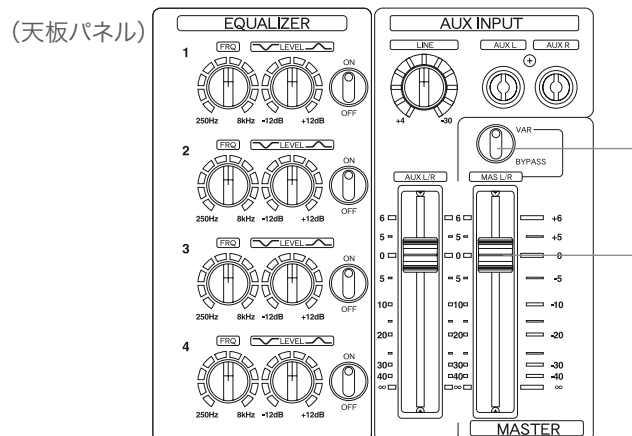


5. 同じ方法で、4chとも調整してください。これで音声の調整は完了です。

■フェードイン・アウトを使用する

1. すべての出力をフェードイン／フェードアウトしたいときは、上面天板パネルのMASTERボリューム（スライド式,L/R連動）で行います。

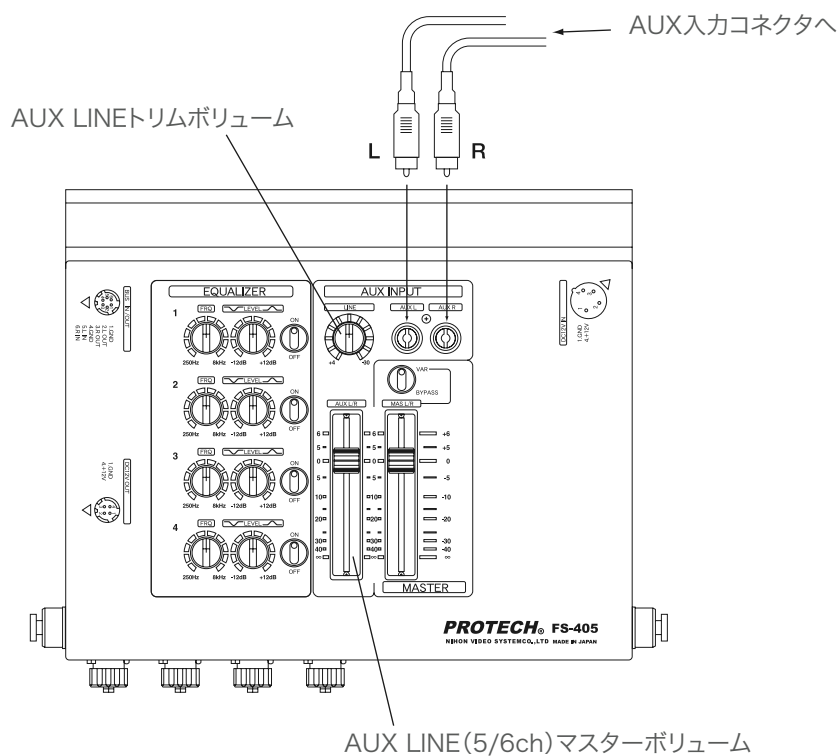
MASTER BYPASSスイッチを VAR にします



MASTERボリュームによりレベルを調整します

2. AUX LINE入力も同様に、AUX LINEマスターボリューム（スライド式,L/R連動）でL/Rchそれぞれへフェードイン／アウトでミキシングすることができます。

■AUX INPUT (5/6ch)に入力する



1. 天板の AUX入力コネクタに L/R (5/6ch) の2chを接続します。

(注) この2ch入力、L(5ch)はLへ、R(6ch)はRへの固定ミキシングです。パンポットによるL/Rへの振り分けはできません。

AUX LINEマスターボリューム(スライド式、L/R(5/6ch)連動)でL/Rchそれぞれへフェードイン/アウトでミキシングすることができます。

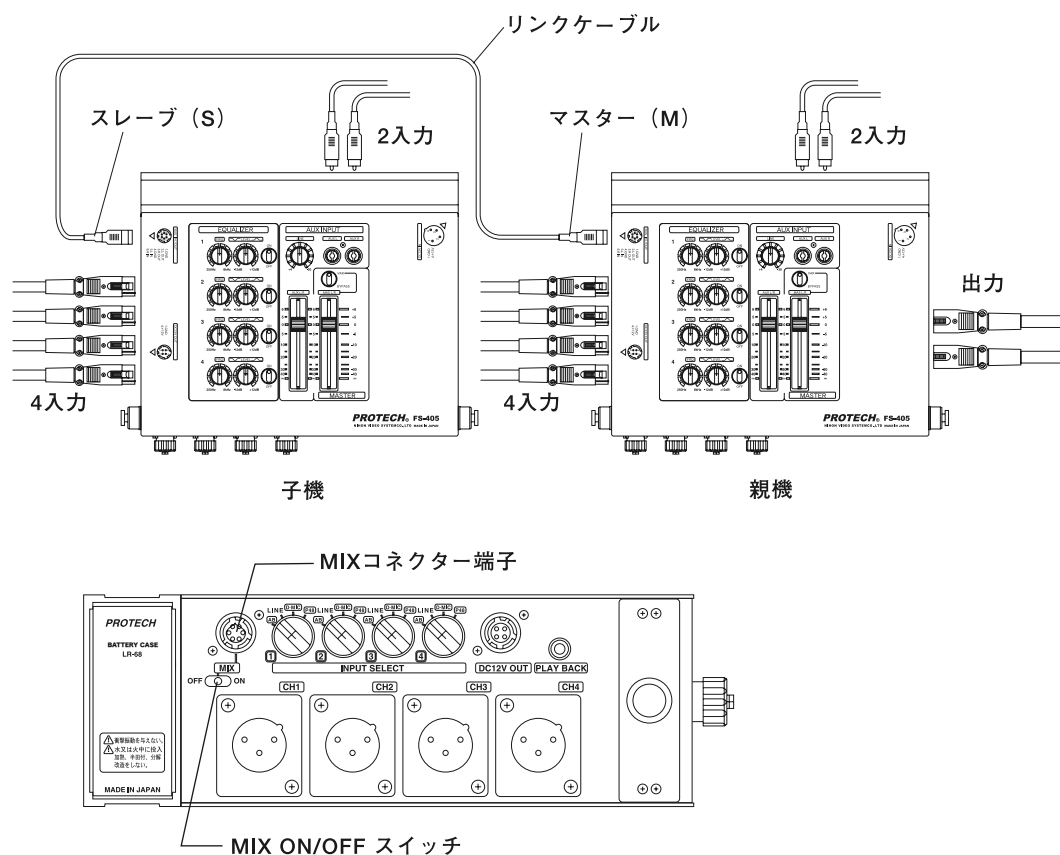
2. AUX LINE(5/6ch)マスターボリュームを 0dBにして、レベルメーターが適正になるようにAUX LINEトリムボリュームの調整をします。
3. AUX LINE(5/6ch)マスターボリュームを必要に応じて調整します。

■8ch(12ch)ミキサーとして使用する(リンク機能)

1. リンクケーブル(LC-405;別売)を使用し、ケーブルのマスター(M)側を親機のMIXコネクタ端子に、スレーブ(S)側を子機のMIXコネクタ端子に接続します。

(注)リンクケーブルのマスター(M)側を接続したFS-405が親機となります。どちらが親機となってもかまいません。

別売リンクケーブル：LC-405 標準価格 10,000円



2. 親機側の MIX ON/OFFスイッチをONします。

3. 子機の全入力が、そのまま親機の入力としてミキシングされます。

(注)ただし、以下の操作は、子機自体でしか動作しません。

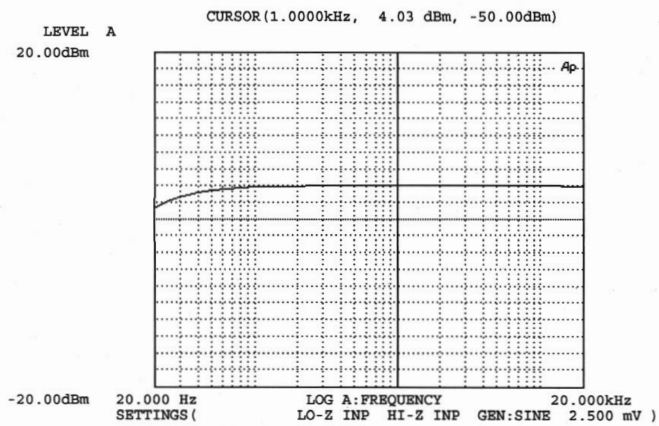
- ・子機の 1kHz基準信号発信
- ・子機のプリフェーダーリスン(PFL)でのモニター

周波数特性

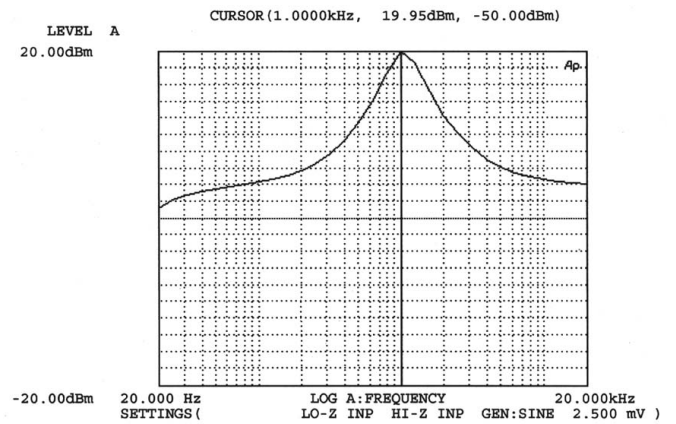
4 ch Field Mixer FS-405

周波数特性

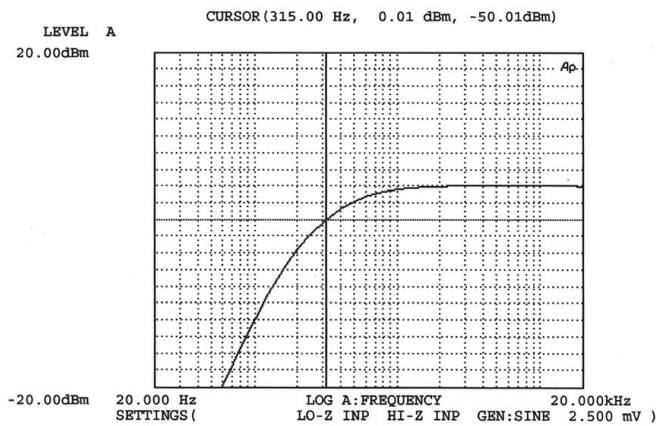
フラット EQ OFF LOWCUT 20Hz



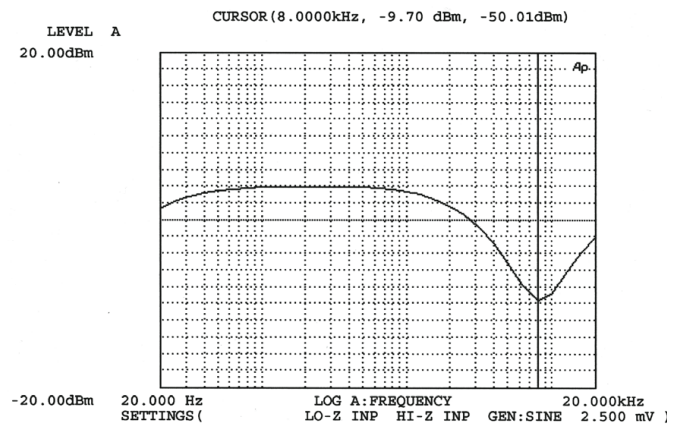
EQ ON UP EQ ON FRQ約1KHz LEVEL +12dB



LOWCUT EQ OFF LOWCUT 300Hz

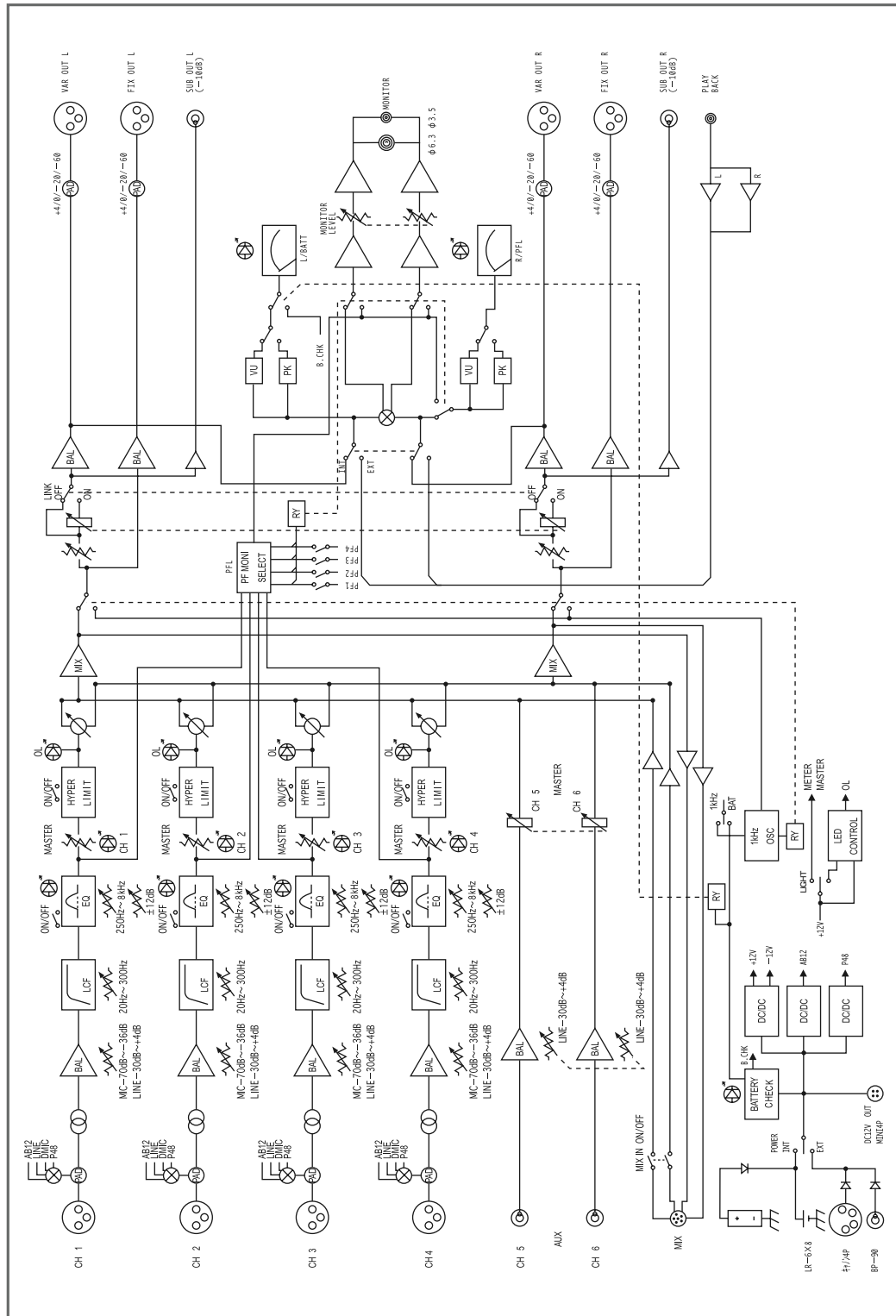


EQ ON DOWN EQ ON FRQ約8KHz LEVEL -12dB



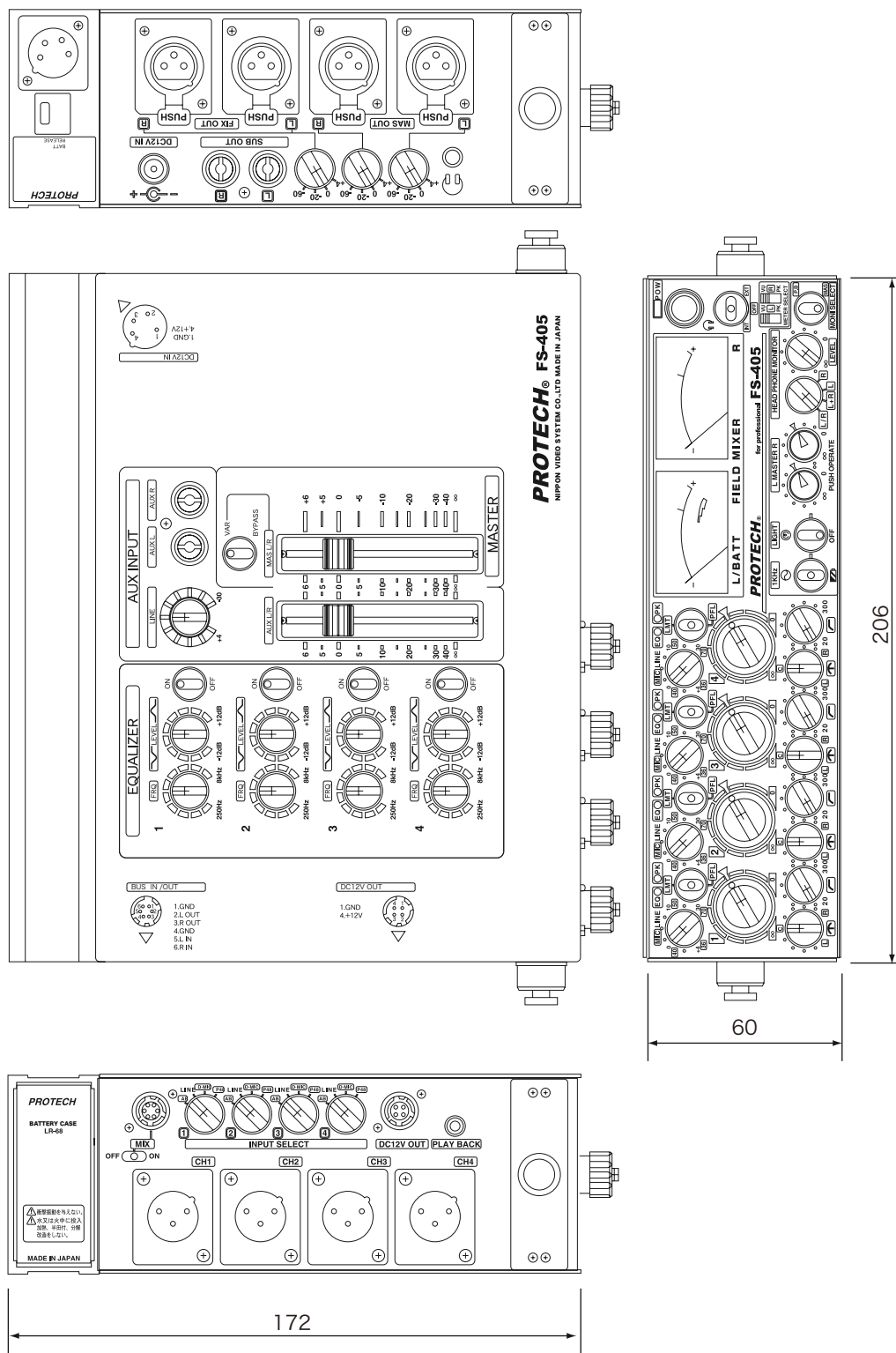
ブロックダイアグラム

4 ch Field Mixer FS-405



外形寸法図

4 ch Field Mixer FS-405



外形寸法図(単位 : ミリ)
Dimensions (unit : mm)

外形寸法図

4 ch Field Mixer FS-405

| | | |
|------|------------------|---|
| 入力 | 音声入力 | 1 ～ 4 ch XLR 3P オス x4 |
| | | 5・6 ch AUX L/R RCA x2 |
| | 入力レベル | MIC -70 ～ -36dBs 連続可変 (1～4chのみ) |
| | | LINE -30 ～ +4dBs 連続可変 |
| | インピーダンス | 600 Ω ±10% |
| | DC | DC 12V IN XLR 4P オス x1 |
| 出力 | | BP-90型コネクタ x1 |
| | マスター音声出力 | MAS OUT L/R XLR 3P x2 |
| | | FIX OUT L/R XLR 3P x2 |
| | サブ音声出力 | SUB OUT L/R RCA ピンジャック x2 |
| | ヘッドホンモニター | HEAD PHONE MONITOR 6.3φ ステレオジャック x1 |
| | | 3.5φ ステレオミニジャック x1 |
| | 最大出力 | L/R : +24dBm |
| | 音声出力レベル | MAS OUT L/R : +4・0・-20・-60dBm 平衡, 600Ω 負荷 |
| 総合特性 | | SUB OUT L/R (RCA): -10dBV 不平衡 |
| | | MONI OUT : -6dBs 不平衡, 8Ω 負荷 |
| | 周波数特性 | LINE : 50 Hz - 15 kHz ±1.0dB |
| | | MONITOR : 50 Hz - 15 kHz ±3.0dB |
| | S/N 比 | ≥ 54dB (-70dBm 入力時) |
| | | ≥ 64dB (+4dBm 入力時) |
| 付属回路 | | MONITOR : ≥ 60dB (30 kHz, L.P.F.使用時, 入力600Ω負荷) |
| | 歪み率 | MIC LINE : ≤ 0.2% |
| | | MONITOR : ≤ 2% (50 Hz ～ 15 kHz) |
| | イコライザー | FRQ(周波数): 250 Hz ～ 8 kHz 各チャンネル独立ON/OFFおよび調整可能 |
| | | LEVEL(レベル): -12dB ～ +12dB |
| | ファンタムマイク入力 | 電源: P-48V(+48 V) および A-B12V 各チャンネルに装備, 合計最大 30 mA |
| | ローカットフィルタ(H.P.F) | 20 ～ 300 Hz, -12dB/oct, カットオフ周波数連続可変 |
| | オシレーター | 1 kHz |
| 電源 | オーディオレベルメーター | VU メーター/PEAK メーター L/R VU/PEAK切替 L/Rチャンネル独立 |
| | リミッター | (入力側) ハイパーリミッター 各ch独立4系統 1-4各チャンネル独立ON/OFF可能 |
| | プリフェーダーリッスン機能 | マスターボリューム直前(フェーダー直前)の音声モニターヘッドホンにより可能 |
| | 電池 | 単三乾電池(LR-6) x8: スライドバッテリーケース(付属)使用 |
| 一般 | | Sony Li-イオン バッテリーパック : バッテリーアダプター BKW-L601(別売オプション)使用 |
| | | BP-90 バッテリー |
| | DC 電源入力 | 12 V DC (9 V - 18 V DC), 最大 0.5 A |
| 付属品 | 電力消費 | 約 0.3 A |
| | 使用温度 | 0°C ～ +40°C |
| | 保存温度 | -20°C ～ +50°C |
| | 寸法(WxHxD) | 206 x 60 x 172 mm (バッテリーケースを含む) |
| | 質量 | 約 1.9 kg |
| | | |

NOTE デザイン, 仕様は、予告なく変更することがあります。

20210427

アフターサービス

■保証書

本製品には保証書が添付されています。

お買い求めの際に販売店の押印がない場合は、無効となります。

保証書は再発行いたしませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。(送料等はお客様負担をお願いします。)

詳しくは保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により

有料で修理させていただきます。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったらまず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度

ご確認ください。それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または

弊社サポートセンターへお問い合わせください。

■ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、お買い上げの販売店、または

弊社サポートセンターへお問い合わせください。

お問い合わせ窓口

○website <https://protechweb.jp> ○e-mail support@protechweb.jp

PROTECH® サポートセンター
☎ 0567-24-4581

(株) 日本ビデオシステム プロテックサポートセンター

〒496-8005 愛知県愛西市諸桑町郷城218番地

TEL 0567-24-4581 FAX 0567-24-4577

○受付時間 午前10時～12時・午後1時～6時まで(土・日・祝日を除く)

会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。PROTECHは日本ビデオシステムの登録商標です。

20210427